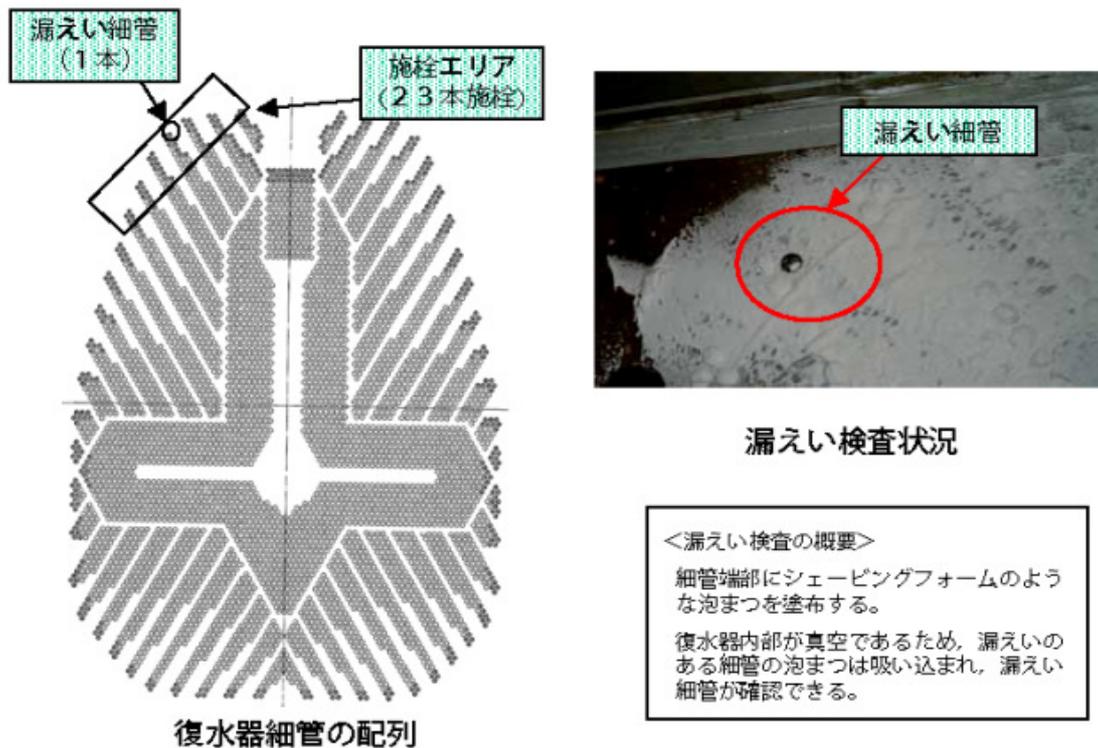
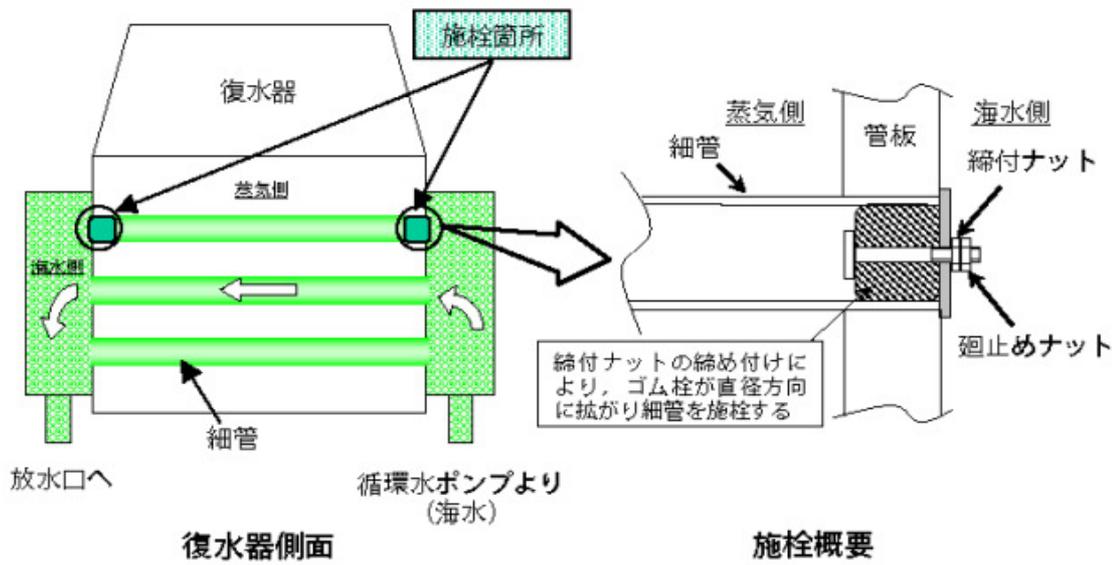


発電所名	志賀原子力発電所1号機	日時	平成16年6月25日18時00分(出力降下決定)
件名	復水器の点検・補修に伴う出力降下について		
事象発生箇所	設備名	タービン設備	
	系統名	復水器系	
	装置名	熱交換器・冷却器装置・冷凍機	
	標準装置名	復水器	
	機器名	復水器	
	部品名	伝熱管	
発生前の電気出力	548万kW	発見時のプラント状況	定格出力運転中
放射能の影響	無し		
発見方法	運転監視	発電停止時間	0分
原因分類	不明		
国への法令報告根拠	—	国際原子力事象評価尺度 (INES)	—
事象発生状況	<p>定格熱出力一定運転中の6月4日午前8時頃より復水器出口導電率がわずかに上昇していることを確認した。これは、復水器内の細管の内部を流れる海水が復水器内へわずかに混入しているものと推定され、監視を強化し、運転することとした。</p> <p>その後、復水器出口導電率はほとんど変化していなかったが、6月22日午後10時頃に再びわずかに上昇したことから海水の復水器への混入量が以前よりも増加していると判断した。</p> <p>海水混入量は、復水脱塩装置で十分除去できるものであり、原子炉への影響はなく、また、外部への放射能の影響もないが、予防保全の観点から、6月25日午後6時から電気出力を約13万5千キロワットまで降下させ、復水器の点検補修作業を行うこととした。</p> <p>点検の結果、復水器の細管1本に漏えいが認められたため、6月27日、当該細管に海水が流れないように施栓する補修作業を行った。また、予防保全の観点から、念のため、当該細管の周辺22本の細管についても施栓した。</p> <p>復水器は、十分な蒸気の冷却性能を有していることから、施栓による復水器の性能への影響はない。</p> <p>6月28日午前6時に出力上昇を開始し、7月1日に定格熱出力一定運転に復帰した。</p>		
原因調査の概要	<p>漏えい検査の概要</p> <p>細管端部に泡まつを塗布する。復水器内部が真空であるため、漏えいのある細管の泡まつは吸い込まれて、漏えい細管が確認できる。</p>		
事象の原因	点検の結果、復水器の細管1本に漏えいが認められた。		
再発防止対策	当該細管に施栓する補修作業を行った。また、予防保全の観点から、念のため、当該細管の周辺22本の細管についても施栓した。		



復水器点検・補修概要